

私にとっての「おの 100」

私は「第 2 回・第 3 回おの 100」に参加させていただきました。

先日、私は地元宮崎県で行われた綾照葉樹林マラソン大会で、10 キロの部に出場しました。一番苦しかったのが 7～9 キロ地点を走っている時でした。疲れたなあ、歩きたいなあと思いながら、ふっと「おの 100」のことを、特に子どもたちの顔を思い出しました。あの時苦しい顔を見せた子どもは、今の私と同じ思いだったのかなあ、それでも辛さに負けまいと頑張っているのだろう改めて感じ、私も頑張っている走らなければならないと思いました。

「おの 100」に初めて参加した時から 2 年が過ぎましたが、今でもこうやって子どもたちの顔を思い出すことがあります。特に自分がつらい状況にある時や落ち込んでいる時がほとんどです。そんなときに思い出すのは、必ずといっていい程一緒にゴールした時の子どもたちの純粋な笑顔です。その笑顔が私を励まし、前向きな気持ちにしてくれるのです。きっと、ゴールした時の子どもの笑顔には、努力すれば必ず報われることや必死になって取り組めばまわりに伝わること、壁にぶつかった時に逃げるのではなく乗り越えることの大事さ等が凝縮されているのだろうと今になって思います。だからこそ、気持ちが沈んだ時に、子どもの笑顔がエネルギーになるのだと思うのです。どんな苦難があっても乗り越えた先に必ず笑顔が待っていることを信じて、行動するようにしています。

また、今でも連絡をとっている子どもやおの 100 で出会ったスタッフ仲間がいます。その子どもや仲間が元気で頑張っている姿を見たり聞いたりすると、自分も頑張らなきゃという気持ちになります。一緒に歩いた子どもたちが、再度「おの 100」に参加し、成長している様子を聞くと、とても嬉しくなります。自分の励みになっています。このような仲間の存在が、自分の支えになっています。それが自分の生きる力の一つであると思います。そして、これからもずっと大事にしていきたい仲間です。

「おの 100」での経験は、自分がどうありたいかを判断する場面で、活かされているように感じます。それは自分らしく生きていくために、これからもずっと生きていくものだと思います。

(小学校講師：猪俣千夏)